

実践のまとめ（第5学年 社会科）

長岡市立上組小学校 教諭 松井 寛明

1 研究テーマ

社会的事象を多角的に考察し、他者とかかわりながら自分の考えを表現する児童の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

小学校学習指導要領（社会編）の目標（2）では、「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決にむけて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。」と記載されている。また、「学習の問題を追究・解決する活動、すなわち問題解決的な学習過程を充実させること」が求められている。

これまでの実践を振り返ると、立場や視点が明確でない話し合い活動になることが多く、互いの考えを関連させながら練り上げていく話し合い活動を組織することができていなかった。そのため、授業後の児童の振り返りを見ると、習得した知識に関わる記述が多く、問題解決的な学習過程をとおして考えが広がったり深まったりしたという記述があまり見られなかった。

そこで、上述の社会科の目標をふまえ、社会的事象を複数の立場や視点から考察する力、他者との交流をとおして考えを整理したり、広げたり深めたりする力、考えたことを自分の言葉で表現する力をつけていくことが必要と考え、本研究テーマを設定した。

本研究を通して、蓄積した自分の考えや友達の考え、資料からの情報などを比較・分析しながら、新たな考えを生み出したり、自分の考えに自信をもって生き生きと伝え合ったりする姿を期待する。

(2) 研究テーマに迫るために

① 児童の多角的な思考を促す課題提示

長橋（2017）は、児童の多角的な思考を促し、課題解決に向けて意欲的に学習課題に向き合うようにするための方策の一つとして、課題提示の重要性を説いている。本研究では、思考のズレが生まれる学習課題や、複数の立場や視点から考察する必要のある学習問題を提示し、社会的事象について多角的に思考する姿を目指す。

② 複数の立場や視点から考えたことを整理・交流するための思考ツールの活用

西塚（2016）は、思考ツールを使うことで異なる視点から得た情報をつなぎ、新たな考えを導き出すことができたとして述べている。思考ツールを多角的に社会的事象を捉える際の一助とし、情報を整理し、比較・関連付ける姿を目指す。

本研究では、Yチャートやマトリクスを用いる。情報を分かりやすく整理し、関連付けしながら、自分の考えの根拠を明確にして交流できるようにする。

③ 自分の考えを見つめなおす場の設定

単元を通して、学習課題に対する考えをスプレッドシートに書き溜め、自分の考えを振り返る場を設定する。また、スプレッドシートを学級内で共有し、自分とは異なる考えを見聞きさせることで、社会的事象について見方を広げたり、自分の考えを広げ深めたりする姿を目指す。

(3) 研究テーマに関わる評価

① 振り返りの記述による検証

スプレッドシートに書き溜めた児童の振り返りの記述による評価を行う。抽出児童の記述を分析し、多角的な考察が表れたかどうかについて児童の変容を見取る。

② アンケートの数値による検証

「友達と意見交流をしたり、資料から分析をしたりして分かったことを自分の言葉で表すことは得意ですか。」という点についてアンケート評価を行う。数値の変化を検証するとともに、アンケートの記述欄も併せて分析する。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

水産業のさかんな地域（小学社会 5 教育出版）

(2) 単元の目標

地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べ、まとめる技能、水産業に関わる人々の働きを多角的に考える力、水産業に関わる課題を把握して、これからの水産業の発展について考え、その考えを説明する力を養う。

(3) 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
水産物の種類や分布、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、生産量の変化などについて、地図帳や統計などから必要な情報を読み取り、水産業の概要や水産業に関わる人々の工夫や努力を理解している。	水産物の種類や分布、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用、生産量の変化などに着目して、問いを見いだし、水産業の概要や水産業に関わる人々の工夫や努力、問いに対する解決策について、事象を関係付けながら多角的に考え表現している。	我が国の水産業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全10時間、本時7／10時間）

次 (時数)	・学習内容	・学習活動 ◎学習課題 ■予想される児童の反応	主な評価規準と方法 (評価方法は【 】内)
	①単元を貫く学習問題を設定する。	・はじめてきた外国人をもてなすための料理は何かとその理由を考える。 ■寿司、天ぷら、刺身 ■日本の魚はおいしいから ・なぜ、日本の魚（水産加工品を含む）は「よい」といわれるのかを考え、オクリンクで意見を整理する。 ■漁場がよいから。（漁場） ■漁の方法がうまいから。（漁法） ■新鮮に運べるから。（輸送法） ■料理の仕方が上手だから。（加工）	態日本の魚がよいとされているのかの理由について、予想を立て、課題解決の見通しをもっている。【オクリンク、スプレッドシートでの記述】
単元を貫く学習問題：なぜ日本の魚は「よい」とされているのか。			
1 (6)	②日本の周りの海が魚によいとされる理由について、予想したり調べたりする。 ③魚の様子に着目して、漁法の工夫をつかむ。	◎どうして日本の周りの海は、魚によい漁場といわれているのだろう。 (漁場がよいという意見に対する追究) ・世界三大漁場の資料を見て、課題について予想する。日本の周辺で獲れる水産物の種類や産地、海域の特徴などを資料から読み取って考える。 ■魚の種類が多いからだと思う。 ■わかめとかの栄養が多いから。 ◎どうして同じ魚を捕るのに漁法を変えているのか。あなたが漁師ならどの方法にする？ (漁法がよいという意見に対する追究) ・マグロの一本釣りや巻き網漁を例に、漁法を変える理由について、漁師の立場になりきって予想したり調べたりする。（3つの視点を比較するためのY	知技日本の周辺で獲れる水産物の種類や産地を資料から読み取っている。【スプレッドシートでの記述】 思判表漁法の違いに着目して、漁師の漁の工夫を捉えている。【スプレッドシートでの記

	④ 水揚げから食卓に届くまでの工程に着目し、関わる人々の仕事の工夫を探る。	チャート) ■たくさん捕りたいけど、傷がついたら（自分が食べるとしたら）嫌だから一本釣り漁にしようと思う。	述】							
		◎食卓に届くまでに、魚の質を保つためにどんな工夫をしているのか。 (輸送方法がよいという意見に対する追究)								
		・空から見た漁港の写真や水揚げ後の作業動画などを見て、魚の質を保つ工夫を探す。 ・輸送業者の立場になりきって、調べたり考えたりしたことを共有する。 ■漁港の中の建物の並びがスムーズに作業できるつくりになっている。 ■トラックに冷やす機能があったから新鮮なんだろうと思う。	【思判表】水産業に携わる方の仕事の工夫や思いなどについて捉えている。【スプレッドシートでの記述】							
		◎鯉節の作り方やどんな料理に使われているかを調べて、紹介し合おう。 (加工の仕方がうまいという意見に対する追究)								
	⑤ カツオ節を例に、魚の加工品の作り方やそれを作っている人々の思いについて調べたり考えたりする。	・カツオ節の作り方について、予想したり調べたりする。調べた意見をオクリンクで共有し、内容を確認する。 ■業者は、衛生面を大事にしている。 ■鯉節はどんな料理に使えそう！	【知技】加工品の作り方や関わる人々の思いを資料から読み取り、捉えている。【スプレッドシートでの記述】							
		◎養殖は、日本の魚の「よさ」に関係しているのか。 (輸送方法がよいという意見に関係しての追究)								
		・養殖が質のよさに関係しているかどうか、2つのうちのどちらか、自分の立場を決めて考える。水産業者と消費者の立場からメリットと、デメリットを調べ、それを根拠として考えをまとめる。（情報を整理分析するためのマトリクス） ■安全なえさで育てているから、養殖の魚もおいしいと書いてある。だから関係あり！ ■運動不足だし、抗生剤を使うこともある。だから関係なし！	【思判表】養殖のメリットとデメリットについて、資料を根拠にして自分の考えを述べている。【スプレッドシートでの記述】							
			<table><tr><td></td><td>メリッ ト</td><td>デメリ ット</td></tr><tr><td>水産</td><td></td><td></td></tr><tr><td>消費</td><td></td><td></td></tr></table>		メリッ ト	デメリ ット	水産			消費
	メリッ ト	デメリ ット								
水産										
消費										
2 (2)	⑦ 水産資源に恵まれた日本がなぜ輸入をしているのかを予想し、水産業者と消費者の願いや思いについて考える。	◎日本の魚のよさがあったのに、なぜ、日本も輸入しているのだろうか。 輸入する必要がある？ない？								
		・水産資源に恵まれた日本がなぜ輸入をしているのかについて、資料をもとに水産業者と消費者の立場から考える。（情報を整理分析するためのマトリクス） ■水産業者は、200海里水域制限というものが関わっていて、仕方なく輸入している。 ■消費者は、日本では獲れない他の種類も食べたいのと思う。	【懸】日本が輸入をしている理由について、資料から読み取った情報をもとに、自分なりに考えている。【スプレッドシートでの記述】							
		◎おうちの人と買い物にきています。おうちの人々が次の2つで迷っています。 今までの学習を生かして、どちらを買うかアドバイスをしましょう。 A:「外国産」 B:「国産」 *どちらも天然、養殖を含む								
		・水産業者と消費者の立場から、考えを整理してきたこれまでの思考ツールや、資料を根拠にして、本時の課題について考える。 ・自分とは異なる考えの友達と意見交流をし、課題に対する考えを自分の言葉で書き表す。	【思判表】日本が輸入をしている理由と水産業の変化と課題を関連付けて、資料の情報をもとに自分の考えをまとめている。【スプレッドシートでの記述】							
	⑧ 水産業の変化と課題について、考えたこと、気付いたことを自分の言葉でまとめる。（本時）									

		■国産は、新鮮さを保ったり、魚を傷つけない獲り方を工夫をしたりしているから安心。しかし、価格は海外のものより高くなってしまったので、難しい。海外のものは、様々な種類も取れて、消費者のニーズに合わせることができる。	
3 (2)	⑨単元を貫く学習問題について、自分の考えをまとめる。 ⑩水産資源を守るために何が大切なのかを考え、伝える。	◎なぜ日本の魚は「よい」とされているのか。 ・これまでの資料やスプレッドシートの内容を振り返り、漁場、漁法、輸送、加工の観点から情報を整理する。学習問題に対して、その理由をまとめる。 ■漁場がよいからというだけの予想だったけど、輸送の方法や友達の話も聞いて、質がよいというのは様々な業者さんの工夫が合体して成り立っているのだと思った。	【思判表】課題に対して、水産業に関わる人々の工夫や努力、水産業の概況などの事象を関係付けながら多角的に考え表現している【スプレッドシートとオクリンクでの記述】
		◎これからの水産業に大切なことは何だろう？自分の考えを書き表そう。 ・これからの水産業に大切なことについて、これまでの思考ツールやスプレッドシートの内容を基に、水産業者と消費者の立場から考える。 ・考えたことをノートにまとめ、紹介し合う。 ■水産業者：海の資源や環境を守る。海の生き物が減ると、水産業が続けられないから。 ■消費者：国内の水産物を残さず食べる。それは、消費量が減ると生産量も減ってしまうから。	【態】自分の考えを意欲的に紹介している。【発言・ノート】 【思判表】未来のためにできることを資料を根拠にして表現している。【ノート】

4 単元と児童

(1) 単元について

水産業の現況としては、200海里規制による漁場の制限や捕りすぎによる水産資源の減少といった課題、労働条件・労働環境の厳しさ、危険性、将来性や雇用の不安などの理由から、漁業で働く人が減少していることなど、食料資源の確保や自然環境のかかわりなどの観点から様々な問題を抱えている。さらに、日本の水産物の消費量・輸入量はともに世界トップクラスとなっており、その動向は世界に大きな影響を与えている。

このように多岐にわたる問題において、水産業者の工夫や思いに迫ったり、水産業の概況を理解したりするためには、様々な立場や視点から課題を捉えて考えることが必要になる。課題を多角的に考察し、資料の読み取りや他者との協働を通して、それを解決するための手段を自分の言葉で表現させていく。

(2) 児童の実態

実践前に行ったアンケート（表1）では、資料の読み取りについて肯定的な回答をした児童が6割いる（項目④）。一方で、項目⑤では、肯定的な回答をした児童が3割であり、他者との交流や

表1 児童へのアンケート（男子16人、女子14人 計30人の学級）

児童への質問 (対象児童：男子17人、女子13人 計30人)	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」
①社会科の授業は好きですか	36.7%	40.0%	20.0%	3.3%
②自分の考えを発表（表出）することは得意ですか	16.7%	20.0%	43.3%	20.0%
③自分で課題を発見することは得意ですか	20.0%	26.7%	33.3%	20.0%
④資料を読み取ることは得意ですか	30.0%	33.3%	23.3%	13.3%
⑤友達と意見交流をしたり、資料から分析をしたりして分かったことを自分の言葉で表すことは得意ですか	16.7%	16.7%	43.3%	23.3%
⑥⑤で、そのように答えた理由は何ですか	・友達に気付いたことを話すことができる。でも、文にして書くことが苦手。 ・なんとなく思ったことはあるけど、言葉にすることが難しい。			
⑥社会科の授業が好きな理由は何ですか	・知らなかったことを知れるとうれしいし、そういうときは手を挙げられる ・調べるのが好き など			
⑦社会科の授業が苦手だと感じる理由は何ですか	・覚えることが苦手だ ・難しい言葉が多くて、自分だけで考えもイメージできない ・考えるけど、うまく言葉や文にならない など			

資料の分析から自分の考えを表現することに苦手意識をもっていることが分かる。理由として、「なんとなく思ったことはあるが、言葉にすることが難しい。」という思いがある。

本単元では、多角的に考察させ、他者との交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりしながら自信をもって表現できるよう、学習を進めていく。

5 本時の展開（令和6年10月9日実施）

(1) ねらい

水産業を取り巻く変化や日本の水産業の課題などについて、資料の読み取りや思考ツールを用いた他者との交流をとおして、根拠をもって考え、自分の考えを表現する。【思考・判断・表現】

(2) 展開の構想

前時は、日本が水産物を輸入している理由について考えている。水産業者と消費者の立場から、輸入することによる日本への影響や課題などについて資料をもとに考え、思考ツールにまとめている。

本時は、その思考ツールや資料を基に友達と意見交流し、日本が水産物を輸入している理由と水産業の変化と課題を関連付けて自分の言葉で表現させる。

そのために、次の2つの手立てを講じる。一つ目は、多角的な思考を促す課題提示である。「おうちの人と買い物に来ています。おうちの人が次の2つで迷っています。今までの学習を生かして、どちらを買うかアドバイスをしましょう。『外国産』『国産』」とし、立場を決めて自分の考えをもたせる。選択した立場で、前時の学習をふまえ根拠を明らかにして考えを表現する姿を期待する。さらに、異なる立場で考えを交流させ、考えを広げたり深めたりさせる。二つ目は、思考ツールの活用である。前時にまとめた思考ツールを活用し、「外国産」と「国産」を選ぶ理由について、多角的に考察させ、自分の言葉で表現する際の一助としたい。

(3) 展開

時間	○学習活動	◎教師の働きかけ ■予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 10分	○前時の学習活動を振り返る。 ○課題をつかむ。	◎前時まで作成した思考ツールやスプレッドシートに書いた振り返りを見せ、日本が水産物を輸入している理由を確認する。 ■消費者は日本にない種類の魚を食べたいと思っているから、水産業者はそのニーズにこたえて輸入しているはず！	○既習内容のスライドを見せながら、全員が同じ認識をもてるようにする。
	◎おうちの人と買い物に来ています。おうちの人が次の2つで迷っています。今までの学習を生かして、どちらを買うかアドバイスをしましょう。 A：「外国産」 B：「国産」 *天然・養殖を含む		
展開 25分	○自力解決（予想） 資料を確認して、自分なりの予想を立てる。 ○集団解決（思考） 異なる考えをもつ児童同士でグループを編成して、意見交流をする。	◎自力解決を促す。 T：思考ツールや資料を見て、理由を書きます。オクリンクで提出しましょう。 ■日本だけでは獲れない種類もたくさんあるから、外国産の水産物がいいよ。 ■日本の魚の獲り方は、品質を大切に傷つけず獲っています。安心安全だからこれがいいよ。 ◎集団解決を促す。 （同じ考えの人と考えを伝え合う ⇒ 違う考えの人とグルーピング） T：自分とは違う考えの人、同じ考えの人それぞれの意見を聞いて、自分の考えをまとめましょう。 ■輸送に費用がかかるという意見を聞いて、国	◇主体的な学習を促すために立場を決めて考えさせる。 ○資料の情報を全体で確認する。 ○選んだ理由を明確にできるように、思考ツールや資料を根拠とするように促す。思考ツールは、データとしてドライブから確認できるよう

		産にしたほうがよい気もしてきた。 ■外国との漁獲ルールはやはり絶対だと思う。 ほかの国と揉めないように、海外からの輸入品を買ってもらおうほうがよい。	にしておく。
終 末 10 分	○共有 全体で、選んだ理由を整理し、共有する。 ○振り返り 水産業の変化や課題に触れ、学習問題について、自分の言葉でまとめる。	◎班ごとに数名ずつ指名し、出てきた意見を板書することで全体で共有する。 ◎話し合った内容から、自分の考えを表すように促す。 ■国産の魚を勧める。「日本の漁法のよさ」を思考ツールにまとめたとき、傷をつけないように獲っている工夫があった。水産業者はその安心安全な魅力を消費者に知ってほしいはず。また、外国産の魚を輸入すると、日本で働く業者がますます減ってしまうと思う。労働人口が減っているグラフから、人材確保が必要だと思う。	□話し合った内容をもとに、自分の考えを記述することができる。【スプレッドシート/思判表】

(4) 評価

話し合った内容や資料をもとに、水産業の変化や課題に触れながら、学習問題に対する自分の考えを記述することができる。【思考・判断・表現】

A（十分に達成している）	B（おおむね達成している）	C（努力を要する）
水産業を取り巻く変化や日本の水産業の課題などについて、思考ツールや資料を基に根拠を明らかにしながら、友達の考えやこれまでの自分の考えなどに関連付けて、学習問題に対する自分の考えを記述している。	水産業を取り巻く変化や日本の水産業の課題などについて、思考ツールや資料を基に、根拠をもって、学習問題に対する自分の考えを記述している。	Bに満たない。

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

【手立て① 児童の多角的な思考を促す課題提示】

単元の第1時では、単元を貫く学習問題「なぜ日本の魚は『よい』とされているのか。」を設定し、予想を立てた。その後、予想を発表させ、整理すると、「日本の周りの漁場がよいのではないか」「日本は漁法がよいのではないか」「輸送方法がよいのではないか」「加工の仕方がよいのではないか」の4つにまとまった。この4つを次時以降の学習問題とし、単元の進め方を児童と確認した。

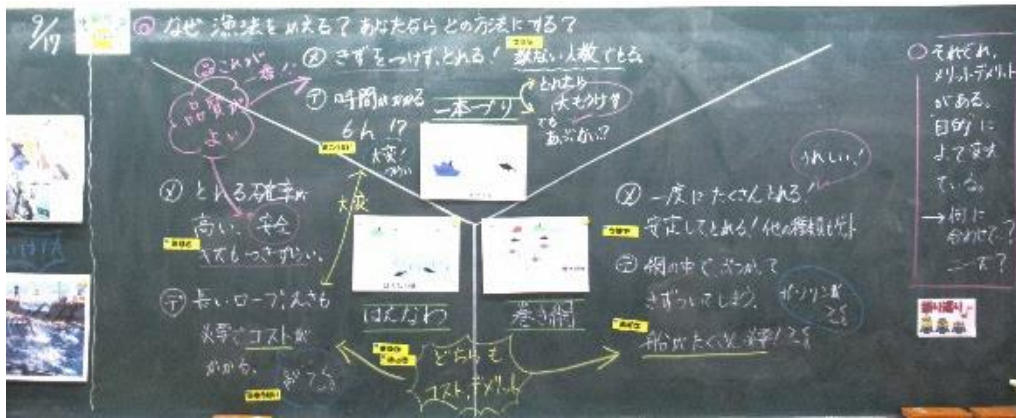
第3時には、「日本の漁法」を取り上げた。「あなたが漁師ならどの方法で獲るか。」と問い、マグロ漁で漁法を変える理由について、漁師の立場に立って考えさせた。児童は漁法を1つ選び、その漁法のよさについて様々な資料をもとに調べ、まとめた。交流場面では、「大量に獲ることができる延縄漁だが、網の中で魚が傷ついてしまう。」「品質を保つなら一本釣り漁だが、コストパフォーマンスに欠ける。」等、漁師の立場になって様々な視点から考えを広げたり深めたりする姿が見られた。

それぞれの漁法のメリットやデメリットを整理する中、どの漁法も「よい魚を届けたい。」という漁師の思いが込められている、という概念的知識を獲得することができた。

このことから、立場や視点を決める課題提示をすることは、児童の多角的な思考を促すうえで有効であった。

【手立て② 複数の立場や視点から考えたことを整理・交流するための思考ツールの活用】

第3時では、3つのマグロ漁法のよさについて、児童の発言をYチャートで整理した。整理し始めると、以下のような児童の交流が生まれた。



Yチャートでの情報整理によって複数の視点や立場からの意見を関連付けて考え始めた場面

C1: 一本釣りしかないよ！だって一人で釣っちゃえば、給料も自分のものにできるじゃん。

C3: 私は、巻き網漁がいいと思った。一度にたくさん獲れるって書いてあるし、簡単なほうが楽！とにかく楽なのが一番いい！

C4: ぼくも巻き網漁がいいな。とにかくたくさん獲ったほうが給料儲かりそうだし！

C2: でも、一本釣りだって、ずっとやってればたくさん獲れるよ。だって、6時間くらい釣っているって書いてあるし。

C3: 巻き網漁は、やっぱりたくさん獲れるよね。でも傷がつくってというのは、デメリットのところに書こう。

C1: 巻き網漁は、たくさん獲れるし、一本釣り漁は（漁獲量が）少ない。しかも、一本釣り漁は、ギャンブルみたいで、釣れたらいいけど、安定しないって感じがしたな。

C4: (悩みながら) やっぱり、巻き網漁が一番かな。どっちもよさそうだけど、でも、安定っていうのは、働いている人にとったらすごい大事な気がする。

C1: あと、ガソリン代も船の数で違うんじゃない。

C4: (メリットデメリットを指しながら) ああ。たしかに。それで比べたら、一本釣りのほうがいいって思うな。

C3 児は、選択した巻き網漁について「一度にたくさん獲れる」というよさを伝えたが、他の児童の「一本釣り漁は漁に時間がかかる」という発言を聞き、「網の中で魚が傷ついてしまう」というデメリットに注目し始めた（C3 下線部）。その後、上記下線部のように、量や品質の確保、コストなどの視点から、それぞれの漁法についてメリットとデメリットを比べたり関連させたりしながら、思考を深める姿が見られた。

第7時では、「日本にはよい水産物があるにもかかわらず、なぜ日本も輸入しているのか。」という学習問題を設定した。水産業者と消費者の立場から、資料をもとに、輸入についてのメリットやデメリットをマトリクスにまとめさせた。

児童は、班のメンバーと話し合いながらまとめたが、それぞれの立場を関連付けて思考する様子が見られなかった。そこで、「それぞれの立場になりきって考え、主張に説得力をもたせよう。」と指示すると、以下のような児童の交流が生まれた。

社会 #水産業 #マトリクス #輸入をさるメリット・デメリット (2) 班			
	メリット	デメリット	○思いや願い ■悩み
水産業者	- 人手が足りなくて困っているから、輸入してラクしよう！ - 船が少なくて、コストがかかるから、輸入したほうがいい！ - 船が少なくて、コストがかかるから、輸入したほうがいい！	- 外国の魚を買わなければならないから、おもしろくない！ - 外国の魚を買わなければならないから、おもしろくない！ - 外国の魚を買わなければならないから、おもしろくない！	○おもしろくない！ ■でも、おもしろくない！
消費者	- 日本では、とれない魚が、外国ではとれるから、輸入したほうがいい！ - 日本では、とれない魚が、外国ではとれるから、輸入したほうがいい！	- もし、外国の魚を買わなければならないから、おもしろくない！ - 外国の魚を買わなければならないから、おもしろくない！	○おもしろくない！ ■でも、おもしろくない！

図1 班ごとに書いたマトリクス

マトリクスを用いて、複数の視点や立場からの意見を関連付けて考え始めた場面

C1: (水産業者として) 働くのって大変。時間も長いね。もっと人手を増やすか、輸入に頼ってもいいんじゃないかな。でも、消費者が日本のものを買わなくなるのは困るよね。

C2: 外国産は品質も気になる。日本は養殖だけにするのもよくない？

C3: (消費者として) それだと、食べる種類が少ないから、輸入はしてほしい。

C4: 日本は養殖の技術がすごく高いものね。でも、ノルウェーの資料を見ると、サーモンの養殖の技術も高いみたいだよ。
 C2: (消費者として) 日本の品質は大丈夫そうだけど、外国の水産物の品質もいいみたいだね。じゃあもう、2つの意見を混ぜるしかないよね。

C1 児は、上記下線部のように、水産業者と消費者の立場を関連付けて発言した。C2 児は、マトリクスを指し示しながら、日本産と外国産の品質を関連付けて発言し、2つの意見を混ぜるという提案をした。

その後、マトリクスを用いて話し合うことで、日本が水産物を輸入している背景には、消費者のニーズや排他的経済水域等の取り決めなど、様々な要因があることを理解することができた。

このように、思考ツールを用いて整理することで、比較したり関連付けたりする対象が視覚的に分かりやすくなり、多角的な考察を促すうえで有効であった。

【手立て③ 自分の考えを見つめなおす場の設定】

第9時では、単元を貫く学習問題である「なぜ日本の魚は『よい』とされているのか。」、第10時では、発展的な学習問題として、「これからの水産業に大切なことは何だろう。」について、考えをまとめた。その際、授業ごとに考えや意見をまとめていたスプレッドシートを振り返る時間をとった。学級内で共有していたため、自分の考えだけでなく、他の児童が何を調べ、どのような考えや意見をもっているのか、他の児童の記述を参考にして、課題解決に取り組む様子が見られた。

スプレッドシートに書き溜めたり、学級内で共有し、他の児童の記述を参考にできるようにしたことで、社会的事象における様々な立場の考えや他の児童の考えなどを関連付けて記述するとともに、自分の考えに自信をもって伝える姿がみられるようになった。

(2) 研究テーマに関わる評価

① 振り返りの記述から (抽出児A児, B児)

表1 児童の振り返り記述 (A児: 考えを発表することが得意な児童 B児: 社会科に苦手意識がある児童)

	第1時授業後の学びの記述	第7時授業後の学びの記述	第10時授業後の学びの記述
A児	日本の魚が新鮮だったり、おいしかったりして質がよい理由は、外国よりも海にゴミが少なかったり、漁でとった魚をすぐに市場などに送るからだと思います。もう1つの新鮮で質がよい理由は、 <u>竿で1匹1匹釣っているところがあるから</u> だと思います。	消費者と水産業者には共通の悩みなどがある。 <u>水産業者が魚を獲れないときは、消費者の人は魚が最近高いなと思っていて、水産業者の悩みと消費者の悩みはリンクしてる。最近水産業者の仕事をする人も減ってるし、大変だなんて思って辞める人も多いと思うから政府が給料上げるとかをしてほしいです。思考ツールにまとめてみたら、いろんなことに魚が関わっているんだな</u> と思いました。	私は、水産業者が働くのが大変というのがやっぱり印象的でした。でもそうじゃなくて、もっと働く楽しさや魅力とかがみんなに伝わればいいなと思いました。労働人口という資料を見てみました。資料を見ると、 <u>人がいなくなるピンチをもっと教えたり、楽しさを教えたりして、大変さより魅力をPRしていきたいです</u> 。それができたら、これからも安定して魚を獲れると思います。
B児	日本の魚がよいとされる理由は <u>日本の海岸や海が関係している</u> と思います。たくさんエサがある海で漁をすると質がいいお魚がたくさん取れると思いました。それを調べていきたいです。外国人は、日本の魚が珍しいのかなと思いました。	ぼくは、水産業者がどんな危機なのかを調べてから水産業者の気持ちになってみました。「獲れる魚の量がどんどん減っている」という資料を見てみました。資料を見ると、特に遠洋漁業が大幅に取れる量が少ないことが分かりました。きっと獲りたいけれど獲れない今の現状を見て、 <u>本当につらいんだろうな</u> と思いました。このままだと本当に働く人がいなくなってしまうんじゃないかと思いました。	ぼくは、養殖にもっと力を入れて、国がそれを世界に広めればいいと思いました。魚を捕りすぎたら、いつか無くなるし、そもそも獲る仕事が無くなるかもしれないから、養殖でおいしい魚が食べられればいいと思います。養殖のレベルを上げて、沿岸漁業も続けてっていう二刀流ですれば、 <u>水産業者も大変すぎないかな</u> と思います。

記述への考察	A 児は、漁法や輸送、環境などの多くの視点から記述していた。 B 児は、日本の周りの海の環境に注目し、今後の調査学習に意欲を高めていた。	A 児には、水産業者と消費者の両者の思いを比較し、関連していることに気付いたという記述がある。資料の情報を収集するだけでなく、そこから行政がするとよいことを提案しているため、さらに一歩踏み込んでいる。 B 児は、水産業は、本来身近ではなかった職業であったが、そのつらさや危機感について考え、深く共感している記述があった。	A 児は、水産業者の思いの部分に共感して、労働環境について調べたり、水産業者へのインタビュー記事を分析したりしていた。 「～したい」という記述から、課題を自分事として捉え、方策を考察していることがうかがえた。 B 児は、「養殖」をテーマにし、選んだ理由やコストなどを記述していた。養殖のメリットデメリットを分析した自らの考えを述べている。
--------	---	---	---

A 児は、多角的な考察ができてい上に、今までになかった「行政」という立場からの考えが記述されているため、交流を通してさらに考えを深めたことがうかがえる（第7時の振り返り）。B 児は、「水産業者」の立場からの考えが深まった。漁業の方法、養殖のよさ、水産業者の思いといった部分に着目し、各授業の振り返りで情報を比べながら考えを記述している。B 児の多角的思考を促すためには、各資料の見方について示したり、思考ツールで視点を増やして考えるようにしたりするなど、さらなる手立てを模索していく必要がある。

両者の記述として、事象がどのように起きているのか、誰が関わっているのか、どうしたら解決できるのかといった分析を伴った考察をし、課題解決に向かう児童の姿が見えてきた。水産業に関する複数の資料から「水産業者」「消費者」という複数の視点で事象を見つめることで、知識を活用して多角的に考察することができた。授業後の振り返り記述には、水産業の実情、漁の仕方などの学んできたことを根拠にして、自分なりの考えに自信をもって表出していた。

② 単元の前後における児童の学習アンケート比較から

表2 児童への学習アンケート（抜粋）（男子17人、女子13人 計30人の学級）＊単元実施前 ⇒ 単元実施

児童への質問 (対象児童：男子17人、女子13人 計30人)	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」
④資料を読み取ることは得意ですか	30.0%	33.3%	23.3%	13.3%	40.0%	46.7%	10.0%	3.3%
⑤友達と意見交流をしたり、資料から分析をしたりして分かったことを自分の言葉で表すことは得意ですか	16.7%	16.7%	43.3%	23.3%	20.0%	43.3%	26.7%	10.0%
⑥⑤で、そのように答えた理由は何ですか	・友達に気付いたことを話すことができる。でも、文にして書くことが苦手。 ・なんとなく思ったことはあるけど、言葉にすることが難しい。				・友達の見聞を聞いて、メモをするようにした。先生の資料とそのメモを見るようにして、考えを書く言葉も増えた。 ・説明タイムで、たくさんやったから自信がついた。			

アンケート項目④⑤の肯定的評価（「はい」「どちらかといえば『はい』」）が上がっている。この結果から、資料をもとに多角的に思考したり、友達とかかわりながら自分の考えを広げたり深めたりすることが、自信をもって意見を表出することにつながったと考える。思考ツールで情報を整理しながら他者と交流し、多角的な考察が促し、自身の学びを振り返らせることが有効であったと考える。

(3) 課題

① 多角的思考を促し、事象を関連付けて考えるための思考ツールの活用

本実践では、Yチャートやマトリクスを用いて、多角的な思考を促してきた。社会的事象をより多角的に考察し、事象同士を関連付けていくためには、学習内容に合わせた思考ツールを用いる必要があると感じた。児童に身に付けたい力や学習内容、児童の実態を総合的に考え、どの思考ツールをどのように活用していくことで効果が表れるのか、今後も実践をとおして検証していく。

② 主体的な学びを引き出す学習形態の工夫

本実践では、学習問題に対して、主体的に取り組む児童が多く見られた。一方で、意欲が途切れたり、少ない資料の読み取りで結論付けたりする児童もいた。児童の主体的

な学びを引き出し、学習意欲を継続させるためには、単元の中で、どのような学習形態をとるかが重要であると考えます。ジグソー法で一人一人の役割を明確にしたり、児童自らが学習問題を設定し、学習計画を立てたりする等、児童の実態をよく見取り、学習形態を工夫していく。

③ 考えの変化が可視化できるスプレッドシートの作成

授業ごとに書き溜めたスプレッドシートを学級内で共有したことで、異なる考えを見聞きし、自分の考えを広げ、深めていた。しかし、だれの、どの考えによって変化したのか可視化できていなかった。今後は、スプレッドシートの様式や書き方等を再考し、自分の考えの変化がより分かるようにするとともに、他者の考えに触れるよさを実感させていく。

7 参考文献

- ・ 小学校学習指導要領解説 社会偏」文部科学省(2017.7)
- ・ 中川玄祐 「共通感覚を起点に思考を深める児童の育成に向けた取組」『上越教育大学教育実践研究』 第28集，2018年，43～48pp
- ・ 長橋俊文 「社会的事象を自分事として捉え，問題解決を通して社会的視野を広げる児童の育成」『上越教育大学教育実践研究』 第27集，2017年，37～42pp
- ・ 西塚智行 「歴史を学ぶ意味を実感する物語り」『上越教育大学教育実践研究』 第26集，2016年，43～48pp